

科学をもっと知ろう！

# かがくナビ

## トリチェリーの 真空

1643年、ガリレオの弟子であるイタリアのトリチェリーは、長さ1mほどのガラス管の一方を閉じて水銀を満たし、ガラス管の開いている方の口を指で押さえて水銀だまりの中に入れて倒立させる実験を行いました。水銀の一部は流れ出しますが、大部分はガラス管の中に水銀柱となって留まり、閉じられたガラス管の上部に真空のすき間ができました。

トリチェリーは、空気の重さ（大気圧）が水銀柱を押し上げ、760mmの水銀の重さとつり合っていると結論づけました。

平地の大気圧を世界各地でいろいろな時期に測定した値を平均すると、水銀柱の高さでおよそ760mmになるので、大気圧を表す単位として760mmHgを1気圧と定義し、気象では1013.25hPaという単位で呼んでいます。

